



大村紙業株式会社

東証スタンダード：3953



2026年3月期 中間期 決算説明資料

2025年12月

目次

1. 2026年3月期 中間期決算概要
2. 2026年3月期業績予想の概要
3. 中期経営計画の進捗

1 2026年3月期 中間期決算の概要

売上高は前期比1.1%増収、営業利益は17.1%増益、当期純利益は18.7%増益で推移

1.当期の売上高は、2,951百万円（前期比1.1%増：31百万円増加）

- （1）当期 の段ボールシートの売上高は、509百万円（前期比1.0%増：4百万円増加）
- （2）当期 の段ボールケースの売上高は、1,948百万円（前期比1.9%増：36百万円増加）
- （3）当期 のラベルの売上高は、96百万円（前期比6.1%増：5百万円増加）
- （4）当期 のその他の売上高は、396百万円（前期比3.7%減：15百万円減少）

2.当期の営業利益は、144百万円（前期比17.1%増：21百万円増加）

3.当期の経常利益は、150百万円（前期比19.9%増：25百万円増加）

4.当期純利益は、92百万円（前期比18.7%増：14百万円増加）

2026年3月期 中間期決算の概要

- ・売上高は、販売数量の増加と販売価格の向上により期初予想を下回ったものの増収となり、稼働率向上もあり売上総利益率が向上（25.5%→26.9%）、各段階利益は増益で推移

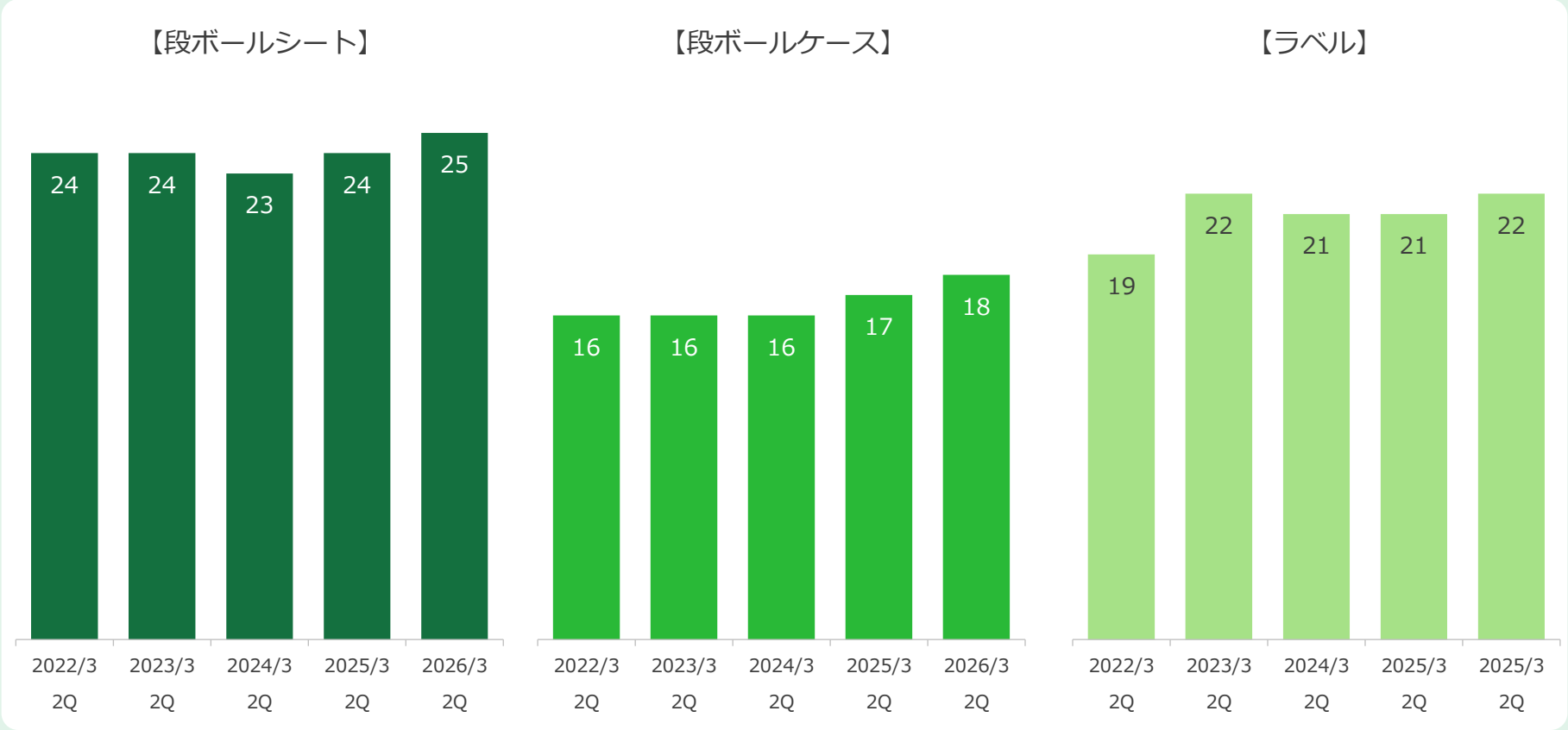
(百万円、%)

	2025/3期 中間実績		2026/3期中間				
			期初予想		実績		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	前年同期比
売上高	2,919	100.0	3,021	100.0	2,951	100.0	1.1
営業利益	123	4.2	166	5.5	144	4.9	17.1
経常利益	125	4.3	167	5.5	150	5.0	19.9
中間純利益	77	2.7	117	3.9	92	3.1	18.7

品目別生産量実績

2026/3期 中間期の生産量は、段ボールシートは1.4%増、段ボールケースは徐々に増加傾向で1.3%増
ラベルは、新規取引先の開拓の取り組みにより、2.0%増

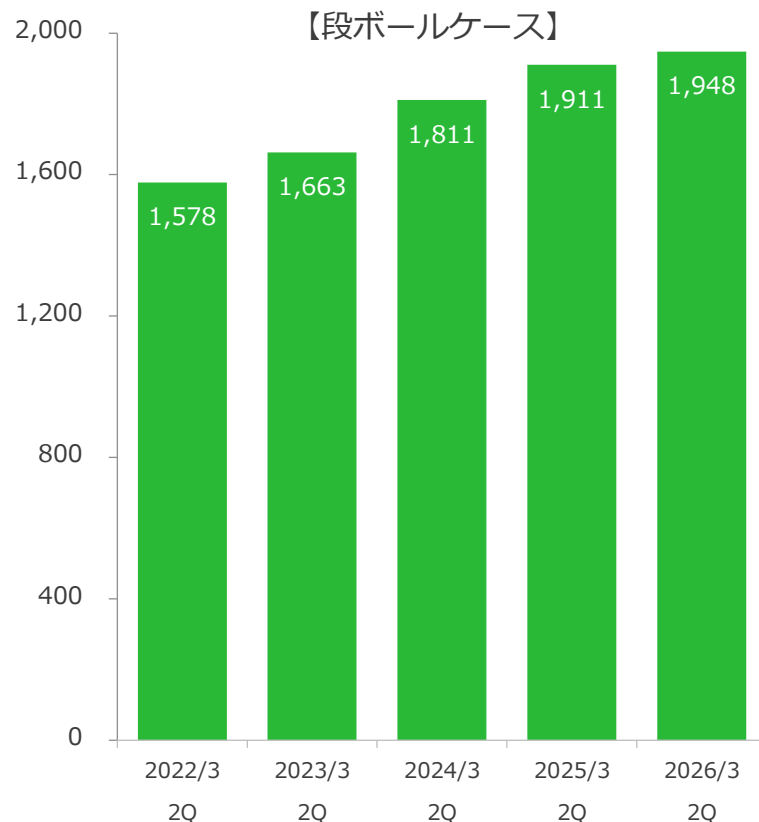
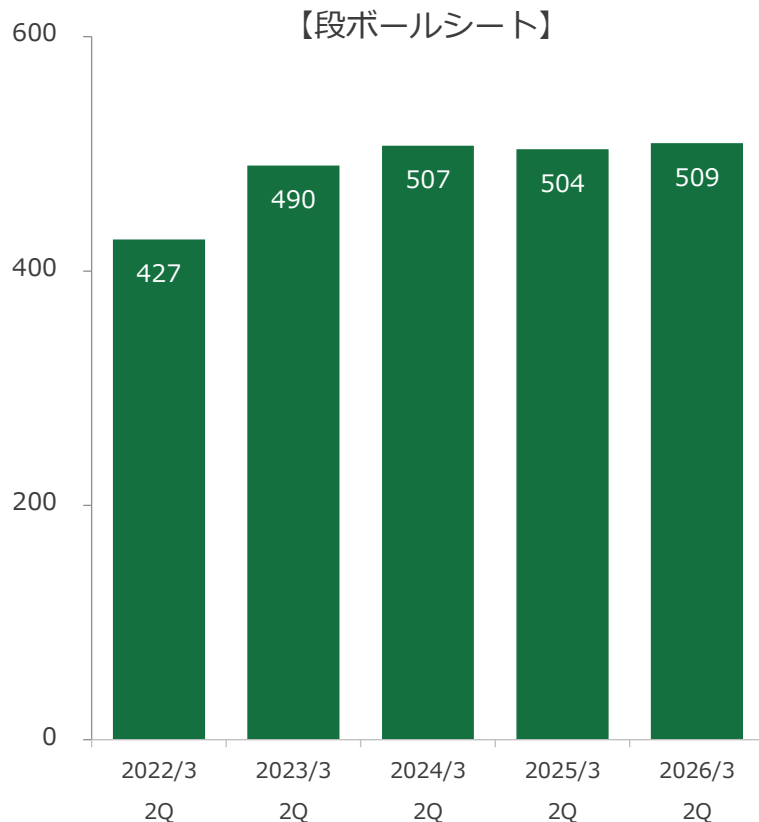
(百万㎡、通)



品目別販売実績①

段ボールシートは緩やかな増加傾向
段ボールケースは、コロナ禍以降、順調に増加

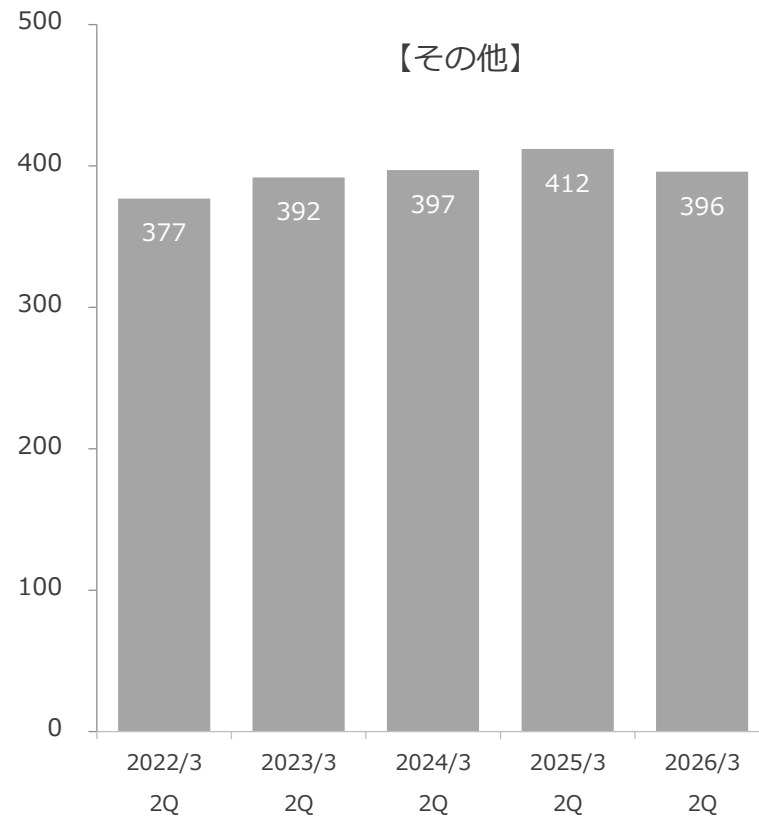
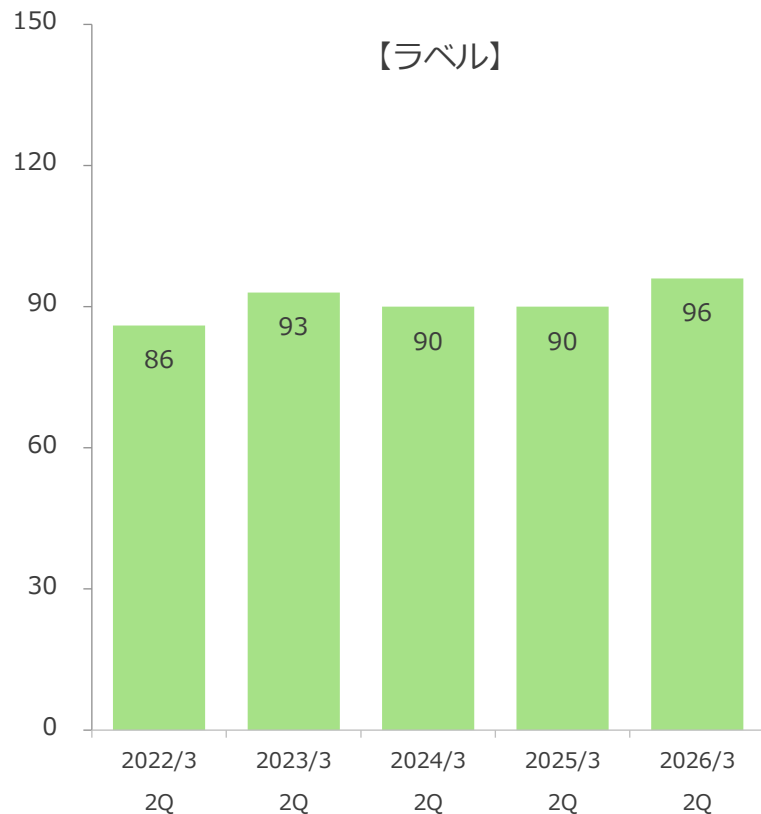
(百万円)



品目別販売実績②

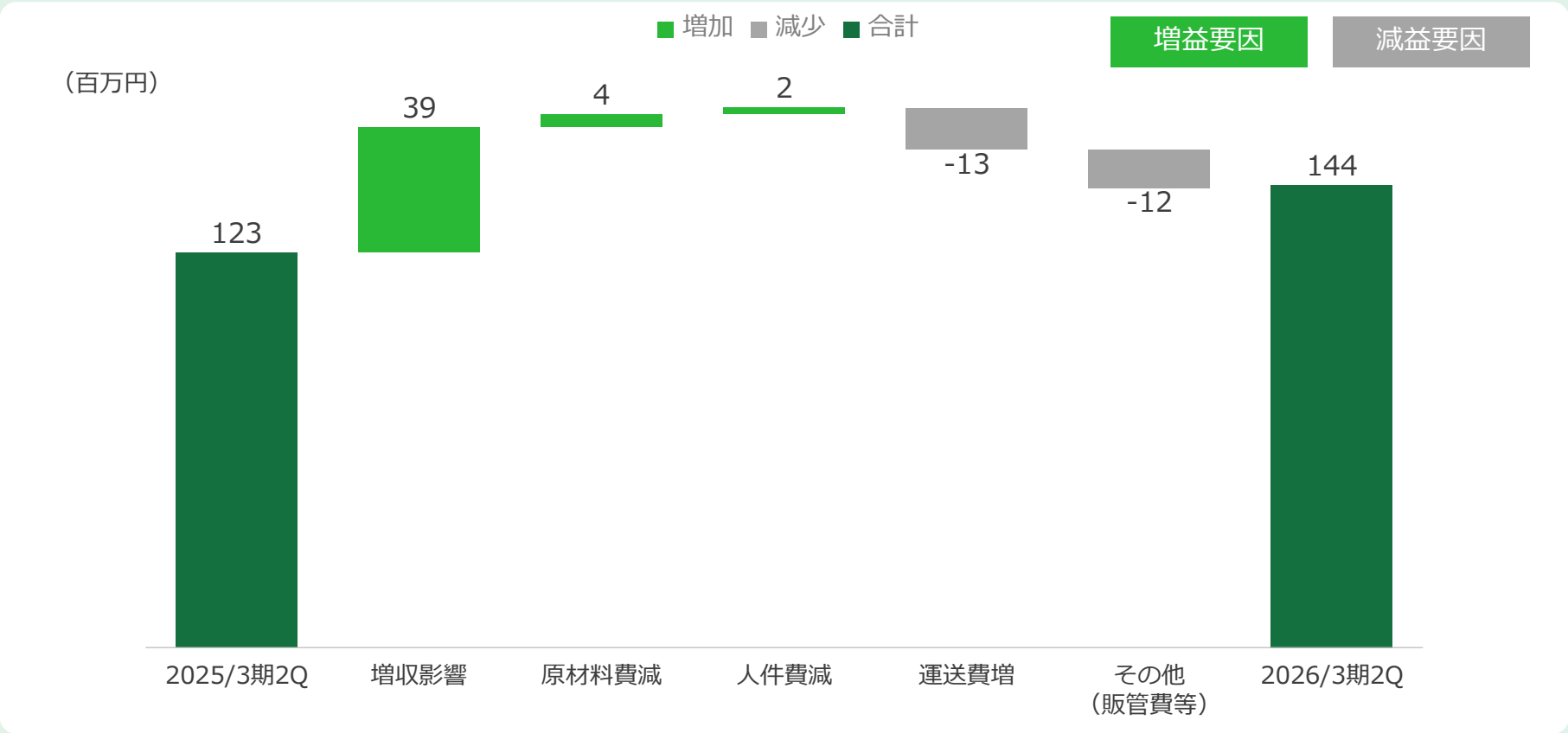
ラベルは新規取引先の開拓による生産量増加により緩やかに増加
その他の売上高は減少

(百万円)

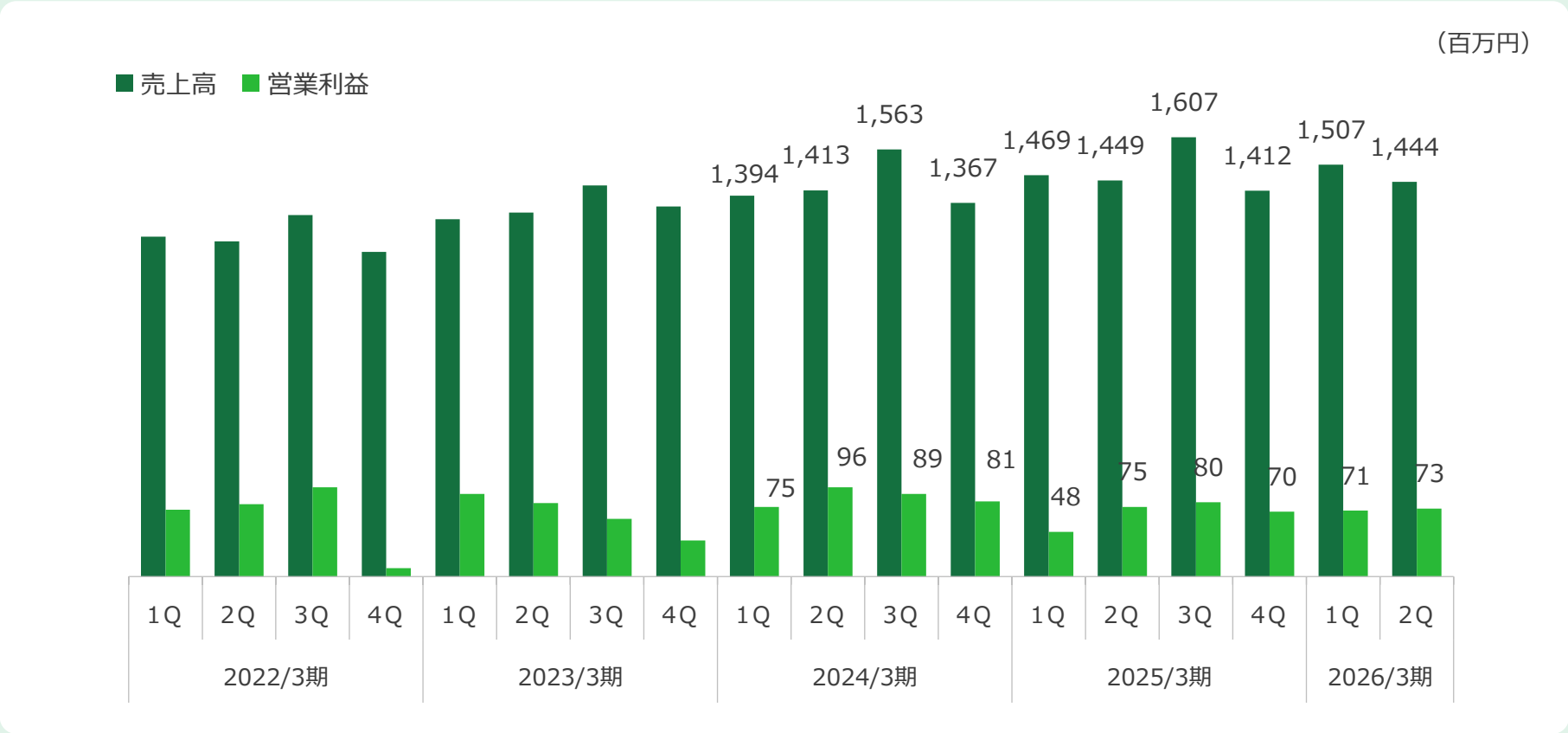


営業利益増減要因

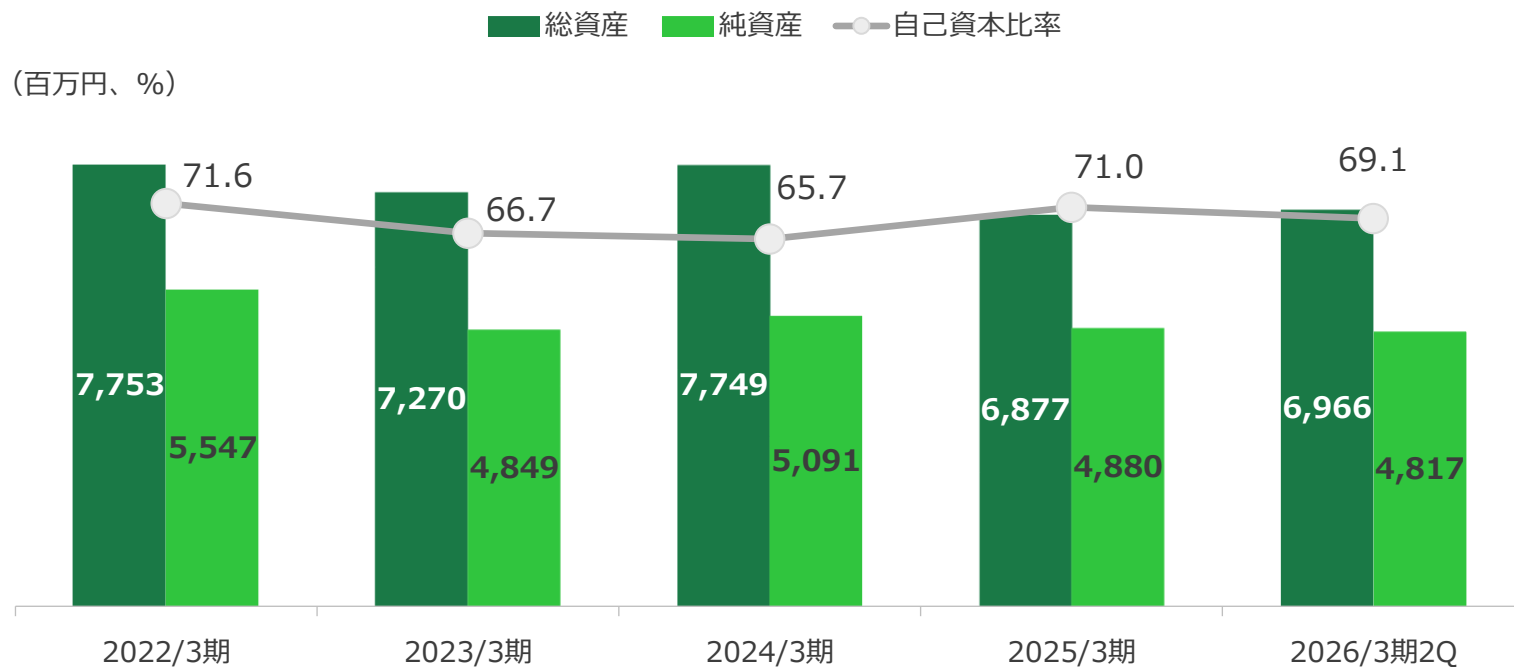
運送費増加の一方、増増収効果により営業利益は増益で推移



売上高・営業利益とも、農産品や年末に向けた物量サイクルの季節性の影響により、3Qが最も高くなり、4Qが低くなる傾向



自己資本比率は、70%前後で推移。強固な財務体質を維持

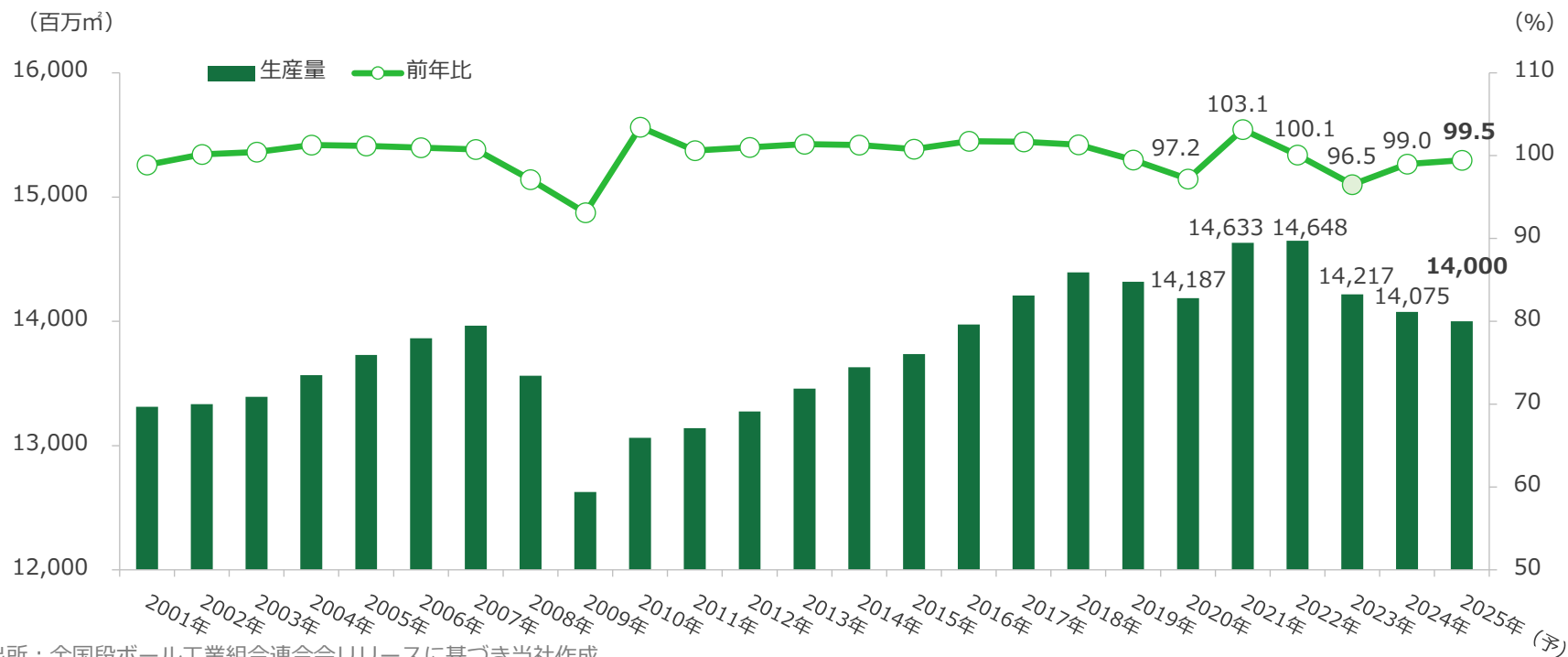


2 2026年3月期業績予想の概要

段ボールの需要予測（2025年）

値上げによる消費マインドの冷え込みが一巡、加工食品用と電気・機械器具用、通販用の微増、青果物用の微減を見込み、2025年の段ボール需要を 14,000百万㎡（前年比99.8%）と予測

【段ボール生産量推移】



出所：全国段ボール工業組合連合会リリースに基づき当社作成

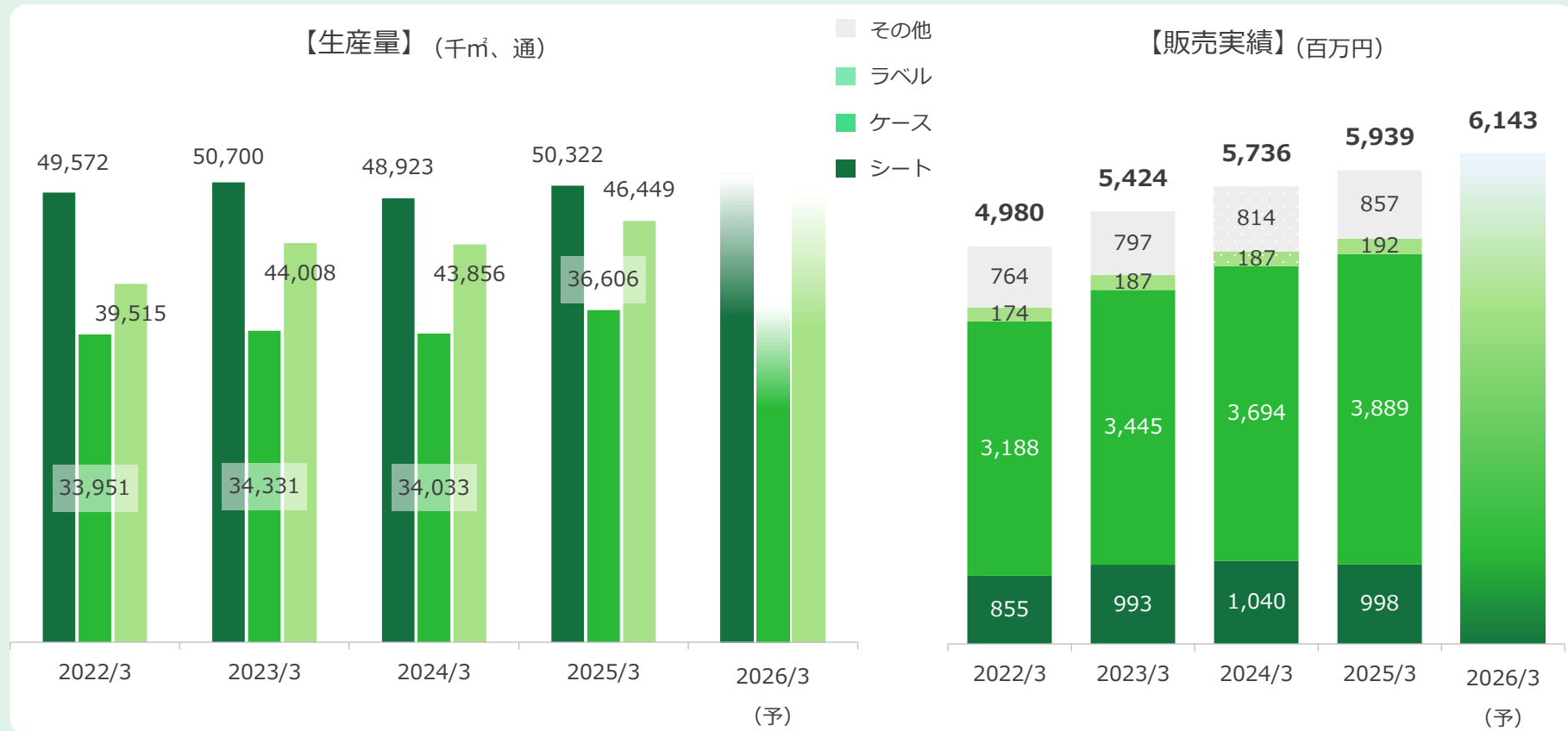
売上高は前期比3.4%増収、営業利益は27.7%増益、経常利益は23.5%増益を予想

- 売上高は、個性化・多様化している段ボールニーズに対して、いち早く迅速・的確に対応し、販売数量拡大とともに、より充実したサービス提供により付加価値を高め、販売価格アップを図る
- 利益面は、工場の稼働率アップによる生産効率、配送効率向上により利益率アップに取り組む

	2025/3期 実績		2026/3期 予想			
	金額	構成比	金額	構成比	増減	増減率
(単位：百万円、%)						
売上高	5,939	100.0	6,143	100.0	204	3.4
営業利益	274	4.6	349	5.7	75	27.7
経常利益	283	4.8	350	5.7	66	23.5
当期純利益	△109	－	245	4.0	354	－

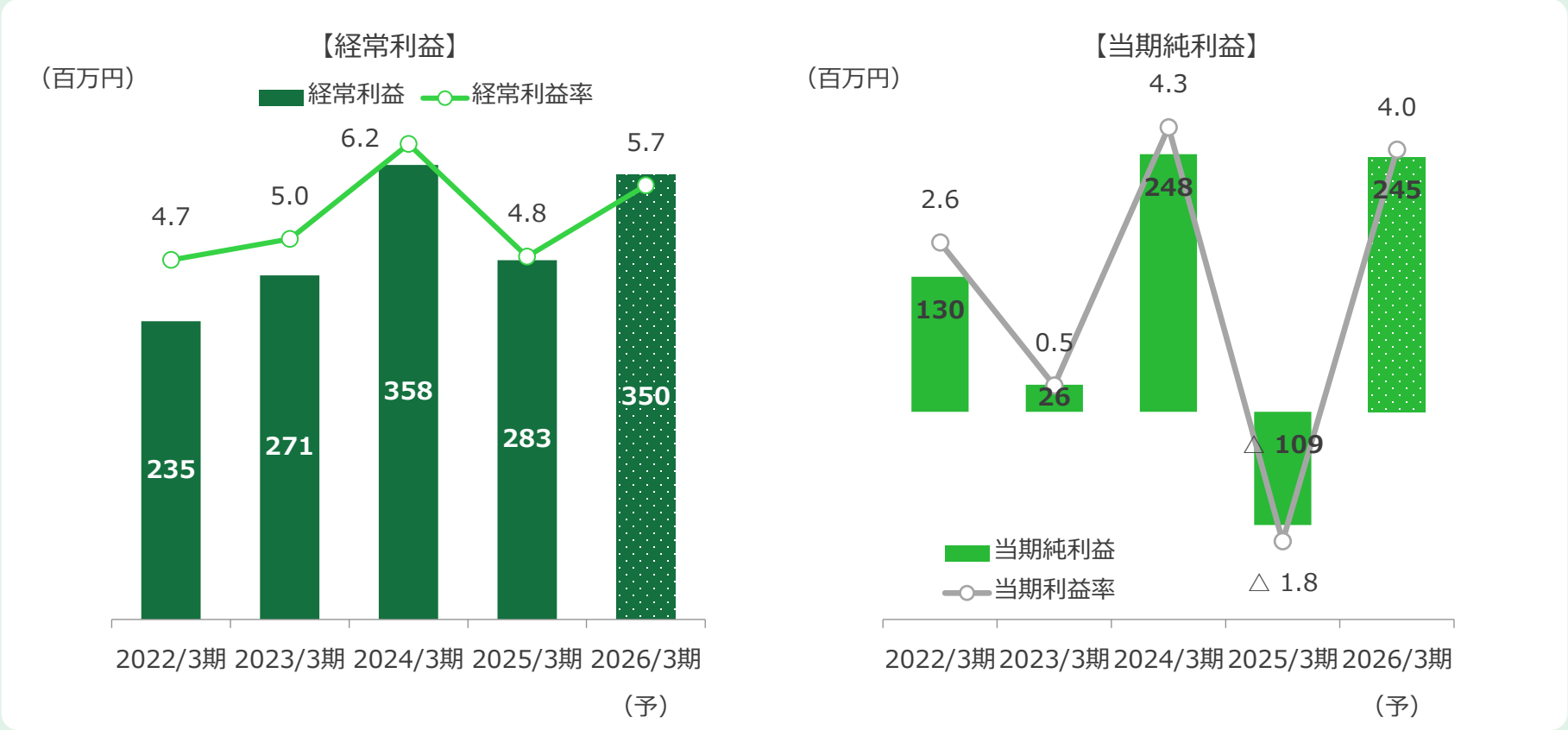
品目別生産量・販売金額推移

生産量は各品目ともに2024/3期は物価高による消費マインド冷え込みにより減少も今期以降は回復を見込む
販売金額は、価格改定効果により、各品目とも増加基調

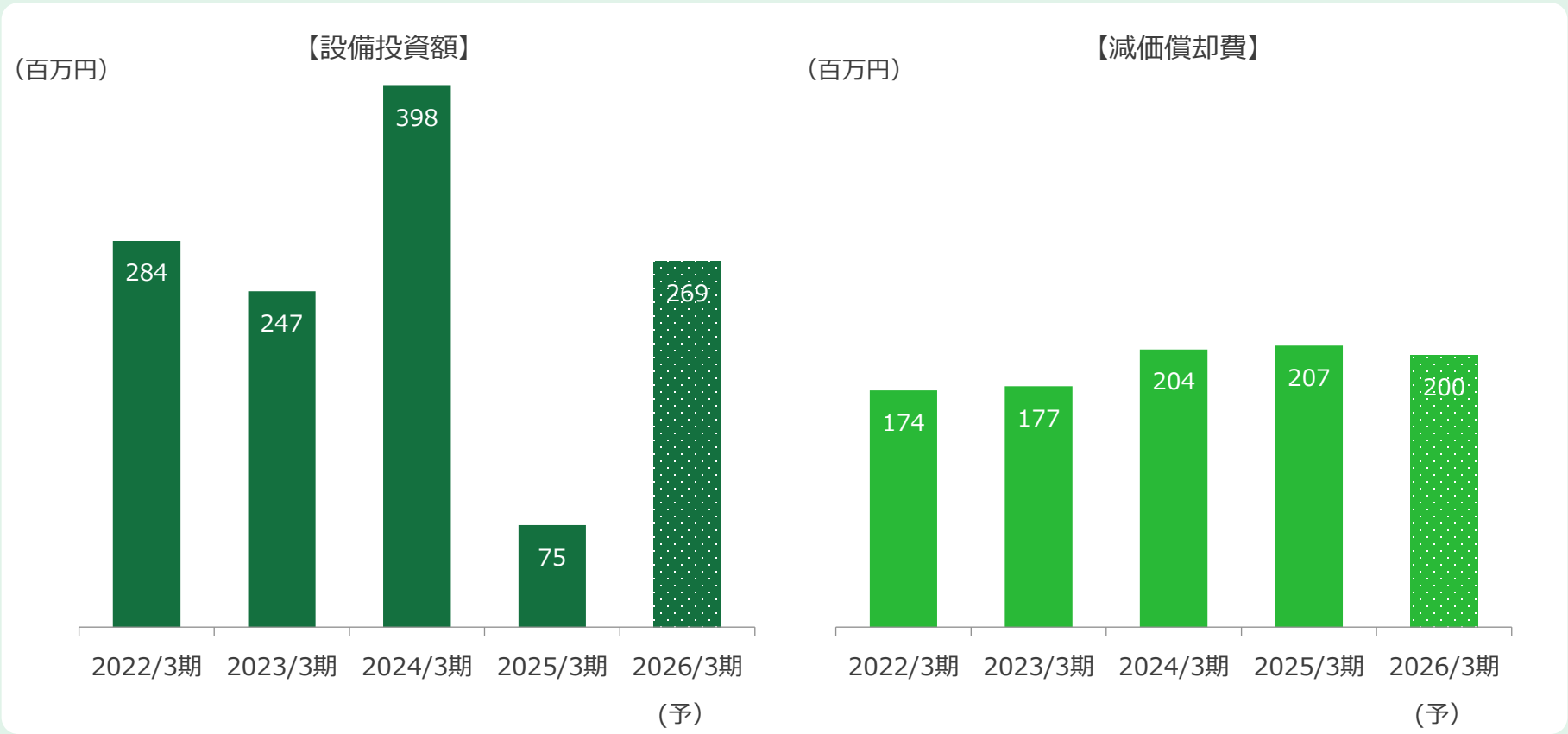


経常利益・当期純利益の推移

経常利益は、原材料価格の高止まりや製造コスト増により減少も今期は増益を予想
当期純利益は、特別損失計上により大幅減益も、今期は平時に戻り大幅い増益を予想



2024/3期にコルゲート及びケース部門の機械装置の入替等大型の投資を実施したため、2025/3期は大型の設備投資は実施せず、減価償却費は概ね横ばいの見込み



安定的な
経営基盤の確立



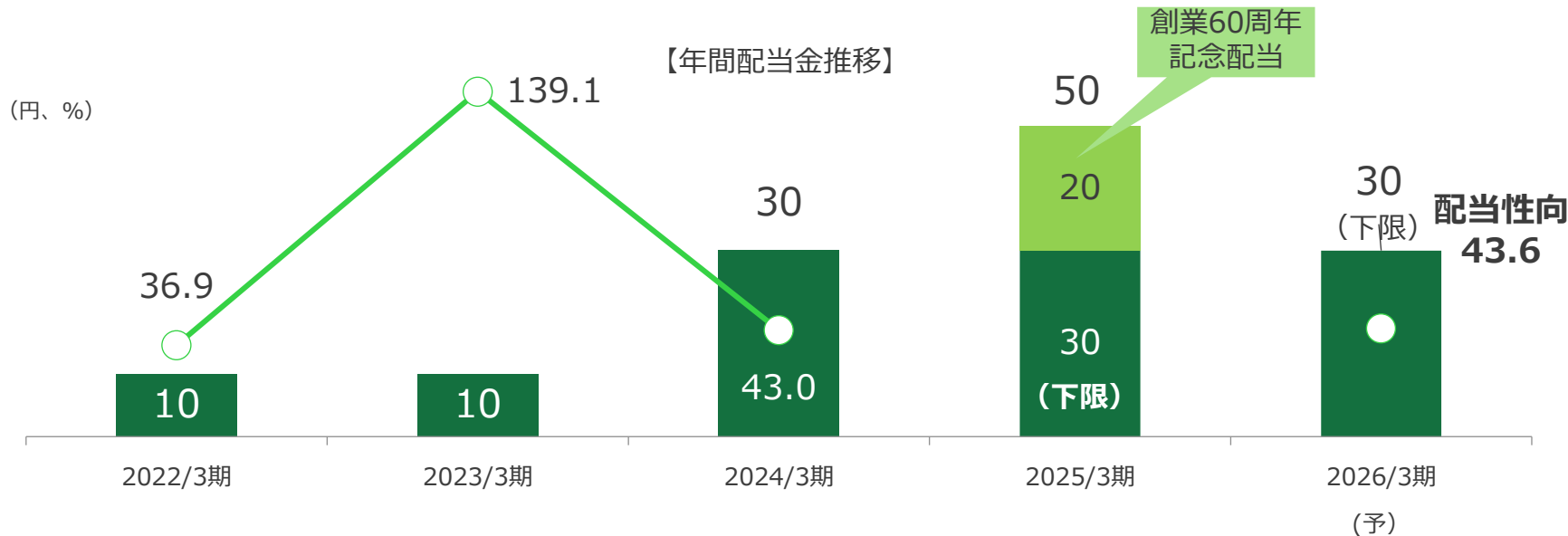
安定配当の維持



株主の皆様の期待に応える
利益還元を目指す

- 自己株式の消却：2022年9月に1,332,324株（消却前の発行済株式総数に対する割合 27.07%）を消却
- 株主還元方針変更及び配当予想修正：2023年11月に1株当たり年間配当金の下限30円とする基本方針に変更

【年間配当金推移】



3 中期経営計画の進捗

トータルパッケージ企業への改革

お客様のこだわりを
表現する

**包装資材の
総合パートナー**

段ボールを核に、その周辺の包装資材を取扱うトータルパッケージ企業として、お客様のこだわりをパッケージやラベルで表現し、スピーディに提供するパートナーとなることを目指します

お客様に頼りにされ
喜ばれる

**地域密着
オンリーワン企業**

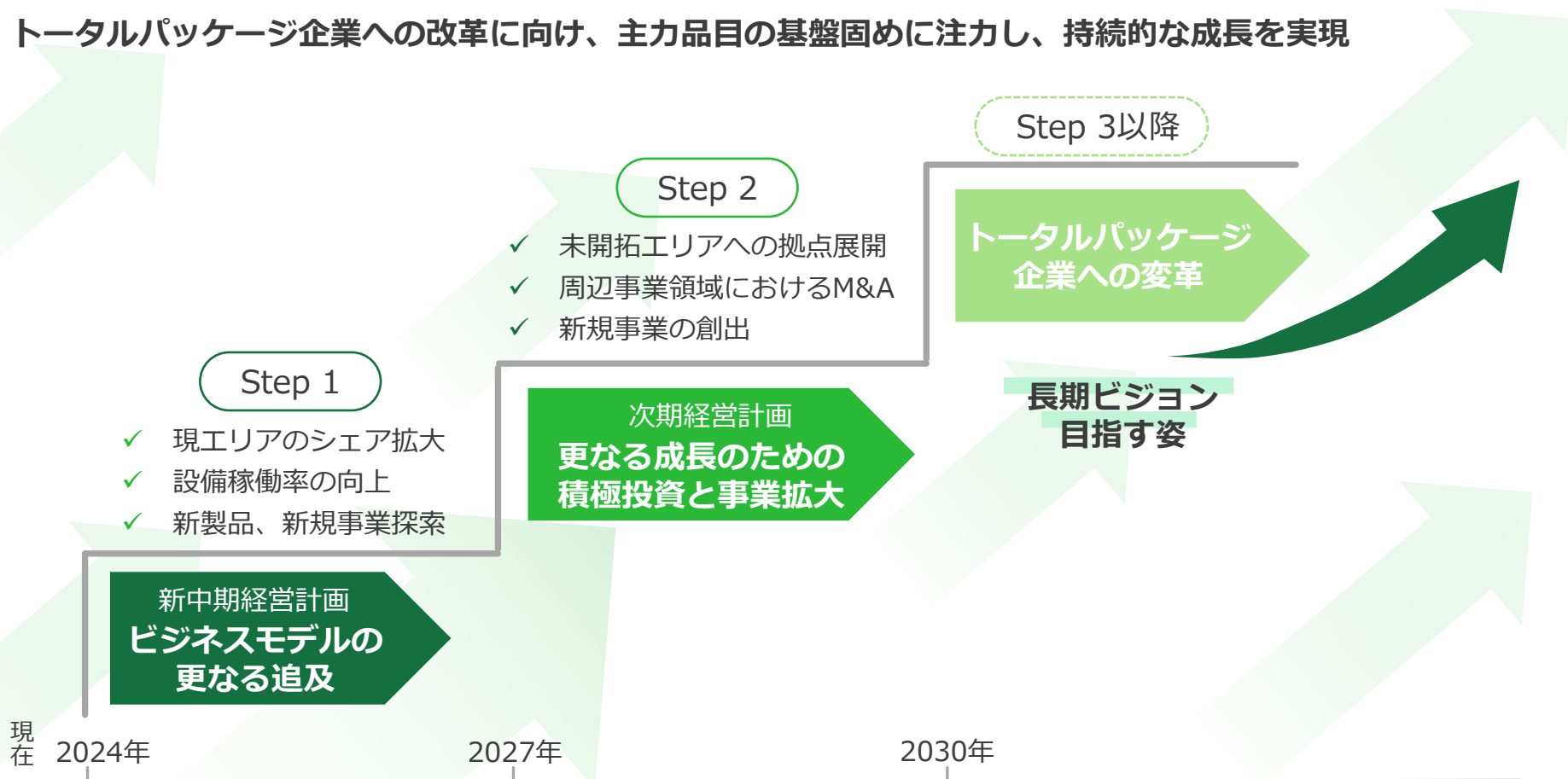
社員一人一人が**包装資材に関するスキル**を高め、お客様や社会に貢献することにより、**地域に根差した特色のある企業**となることを目指します

一人一人が
生き生きと

より働きがいのある企業へ

全社員の経営参画を通じて一人一人が**自己実現**でき、**社員満足度の高い職場環境**を実現します

トータルパッケージ企業への改革に向け、主力品目の基盤固めに注力し、持続的な成長を実現



中長期的な企業価値向上に向け、成長性と資本効率性を同時に高めていきます。
努力目標：売上61億円、営業利益率6.9%、ROE5.5%

(百万円)

	2024/3期 (実績)	2026/3期 (予想)		2027/3期 (目標)
売上高	5,736	6,143	+7.1%	6,145
営業利益	341	349	+23.5%	421
営業利益率	6.0%	5.7%	+0.9pt	6.9%
ROE	5.0%	4.8%	+0.5pt	5.5%

取組方針・・・強みの磨き込みによる、地域シェア拡大

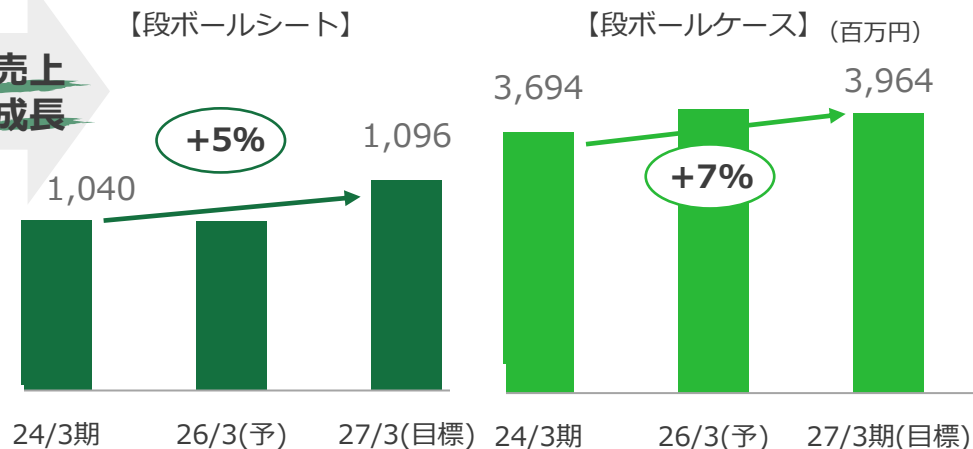
3か年重要施策

- 段ボールケースの構成ウェイトの拡大
 - ✓ 営業・物流体制の強化
 - ✓ 高付加価値商品への注力
 - ✓ 顧客の課題に対する解決策提案力の強化
- 生産性向上等によるコスト削減
 - ✓ 生産効率性の向上
 - ✓ 品質管理機能の強化
 - ✓ 原紙調達コストの削減
- 段ボールを使用した新商品の開発、提案

効果

- 売上拡大
- 設備稼働率の向上・維持
- 粗利率向上

売上 成長



取組方針・・・トータルパッケージ提供の定着

3か年重要施策

ラベル

- ・ 事業部間連携強化による営業力拡大
- ・ 生産体制強化

その他商品

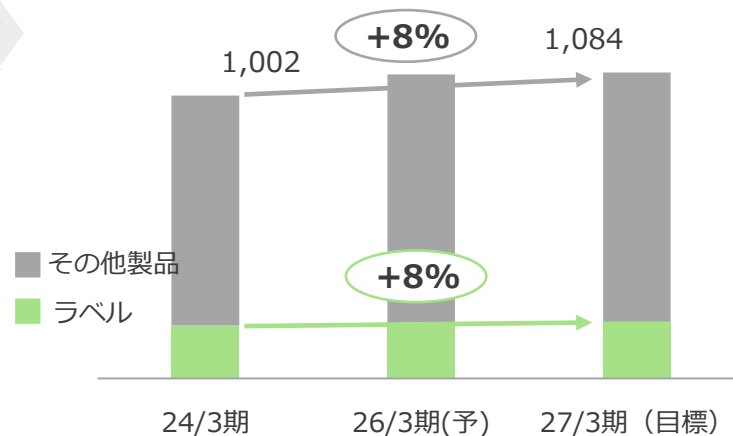
- ・ 取扱商材の拡大
- ・ ノウハウ蓄積の仕組み化
- ・ 営業人財のスキル向上

効果

- 売上拡大
- 生産効率性の向上

売上
成長

【その他商品・ラベル】

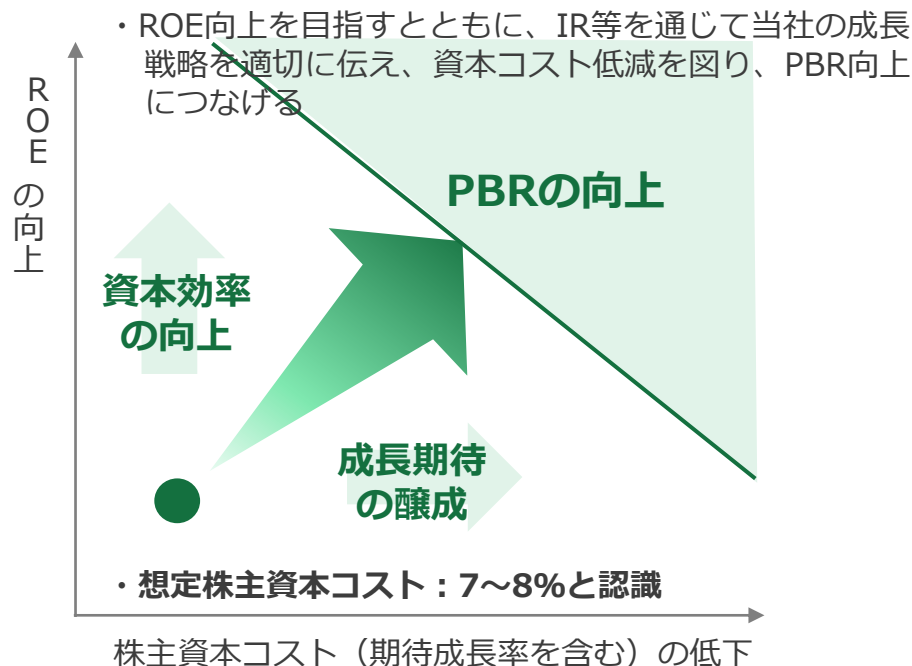
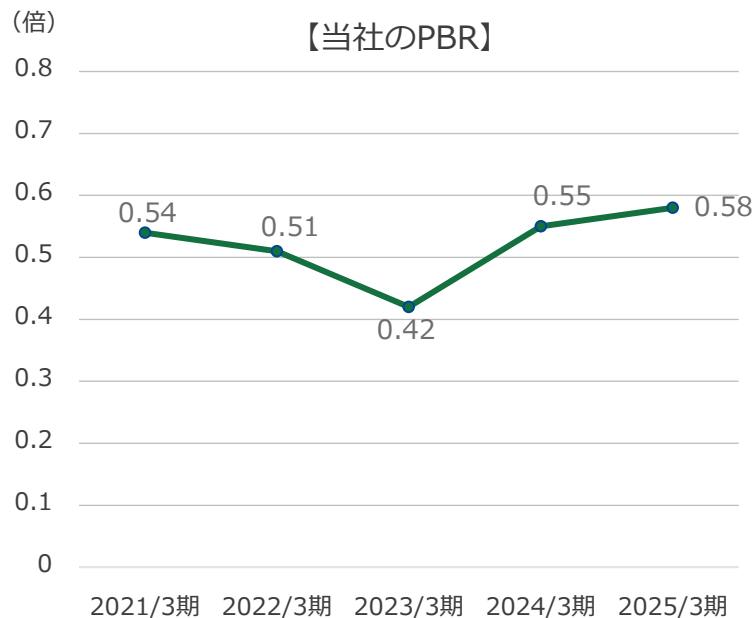


ROE向上、株主資本コスト抑制、期待成長率向上に取り組む

$$\text{PBR} = \frac{\text{ROE}}{\text{期待成長率等を含む株主資本コスト}}$$



ROE向上及び株主資本コスト低減に向けた取り組みを推進する



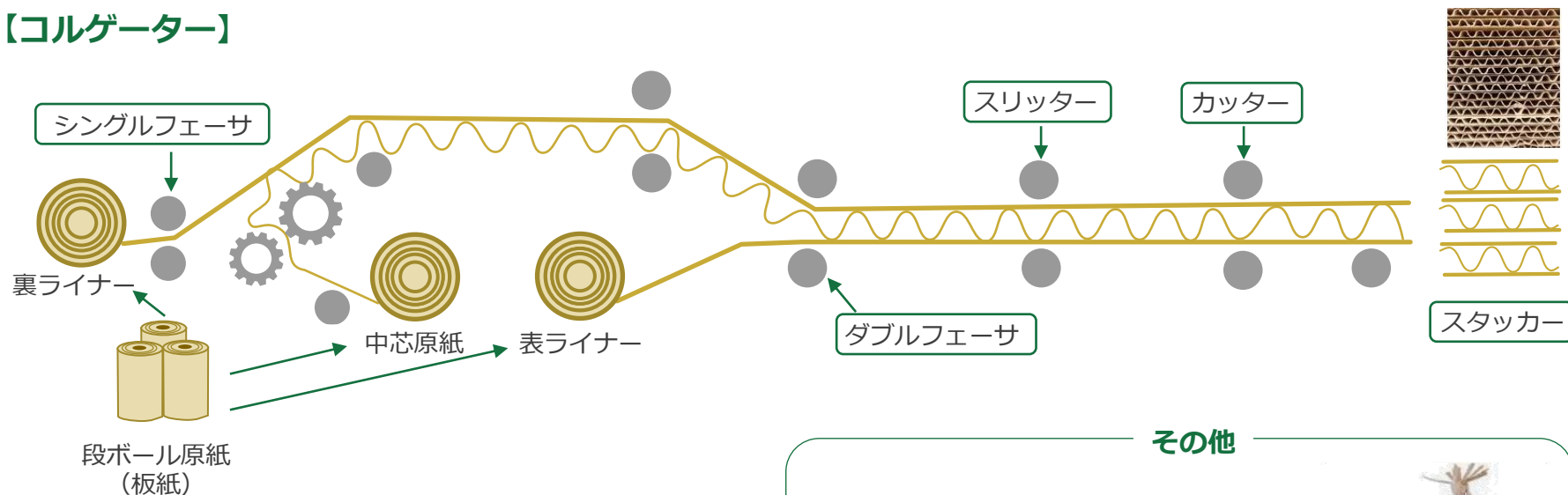
4 APPENDIX

商号	大村紙業株式会社
本社所在地	神奈川県茅ヶ崎市甘沼163-1
設立	1965年3月17日
代表者	代表取締役社長 牧山光人
資本金	554百万円
発行済株式数	3,561,676株
決算期	3月末
従業員数	239名（他 平均臨時雇用者数：26名）
事業内容	段ボール製品（シート・ケース・段ボールパレット）の製造販売、ラベル製品の製造販売、 段ボール・ラベルのデザイン、ディスプレイ関係の請負
国内拠点	事業部：湘南事業部、東北事業部、大阪事業部、栃木事業部、静岡事業部、三重事業部、茨城事業部、 仙台事業部、京都事業部、レーベル栃木事業部、埼玉事業部、千葉事業部、レーベル埼玉事業部 営業所：会津営業所、レーベル湘南営業所 本社内：包装設計デザイン研究所

VISION

再生紙の利用、環境保護への配慮、国際化への対応を的確に図りながら、量から質への転換と研究・開発、段ボール周辺の事業を中心に迅速に推し進めてまいります。

【コルゲーター】



段ボールシート



段ボールケース

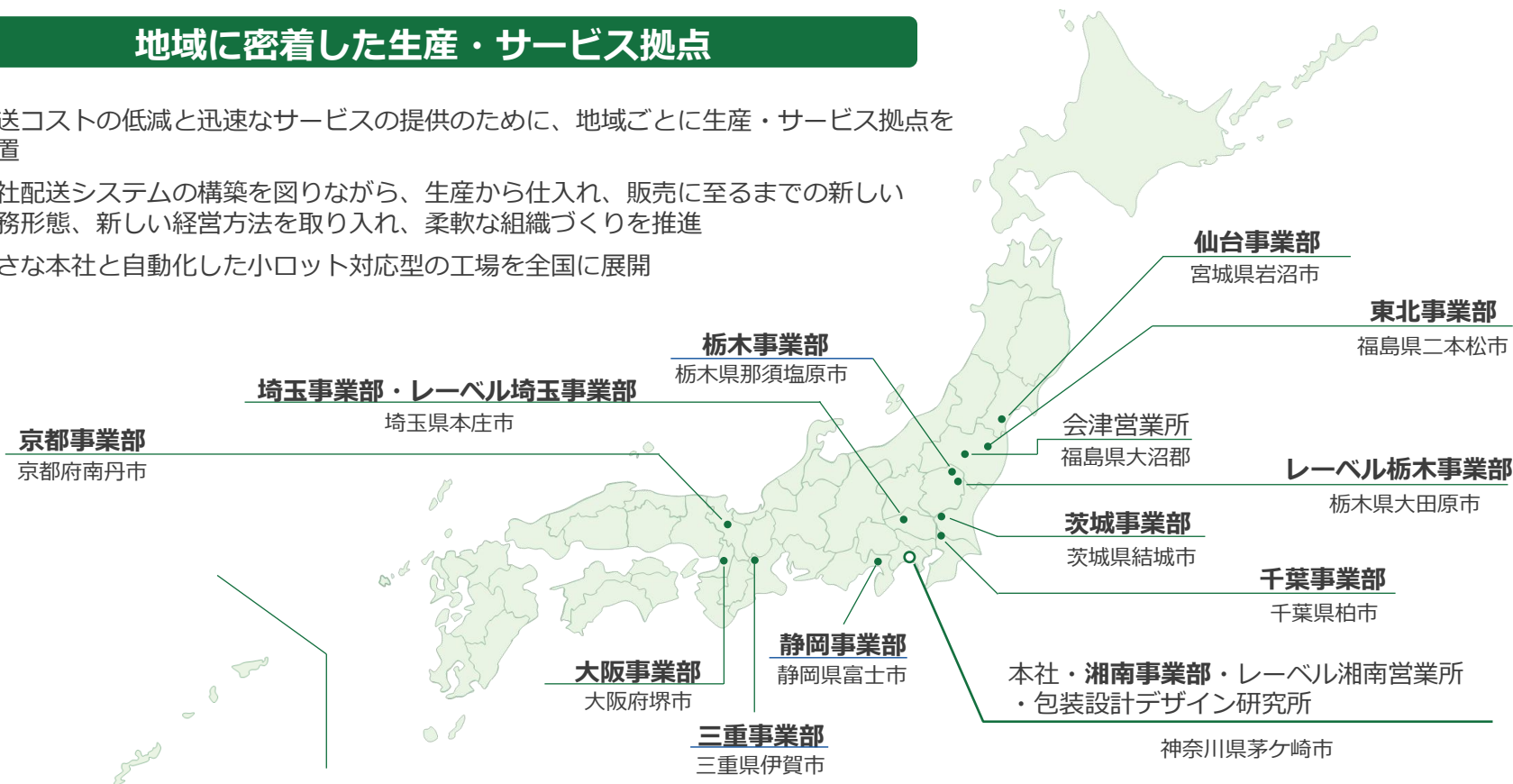


その他

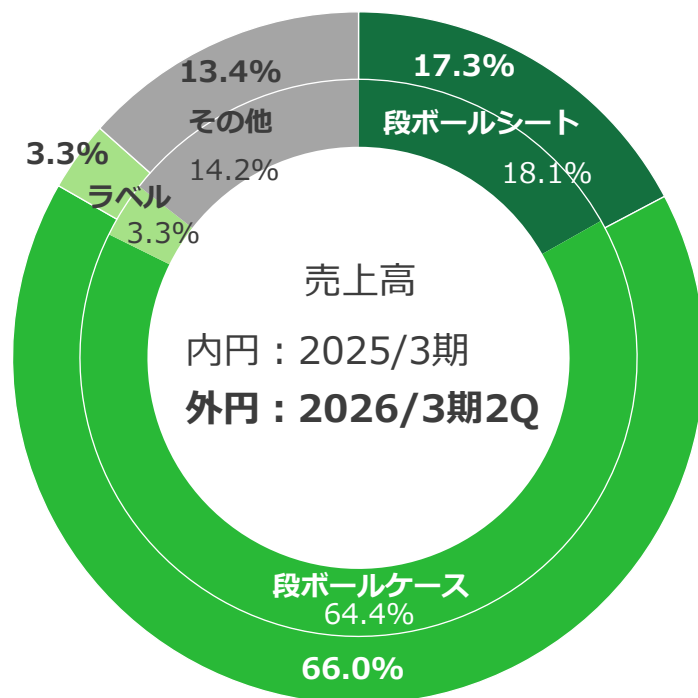


地域に密着した生産・サービス拠点

- ✓ 輸送コストの低減と迅速なサービスの提供のために、地域ごとに生産・サービス拠点を設置
- ✓ 自社配送システムの構築を図りながら、生産から仕入れ、販売に至るまでの新しい業務形態、新しい経営方法を取り入れ、柔軟な組織づくりを推進
- ✓ 小さな本社と自動化した小ロット対応型の工場を全国に展開



【品目別売上高構成比】



段ボールシート

段ボールシートは、波形に形成された中芯とその中芯を保持するために接着剤で貼合わされたライナーという原紙で構成



段ボールケース

印刷、型抜き、糊づけ、製函の工程を経て段ボール製品として完成



ラベル

工業用ラベルから、食品用ラベルまで、小ロットから柔軟に対応



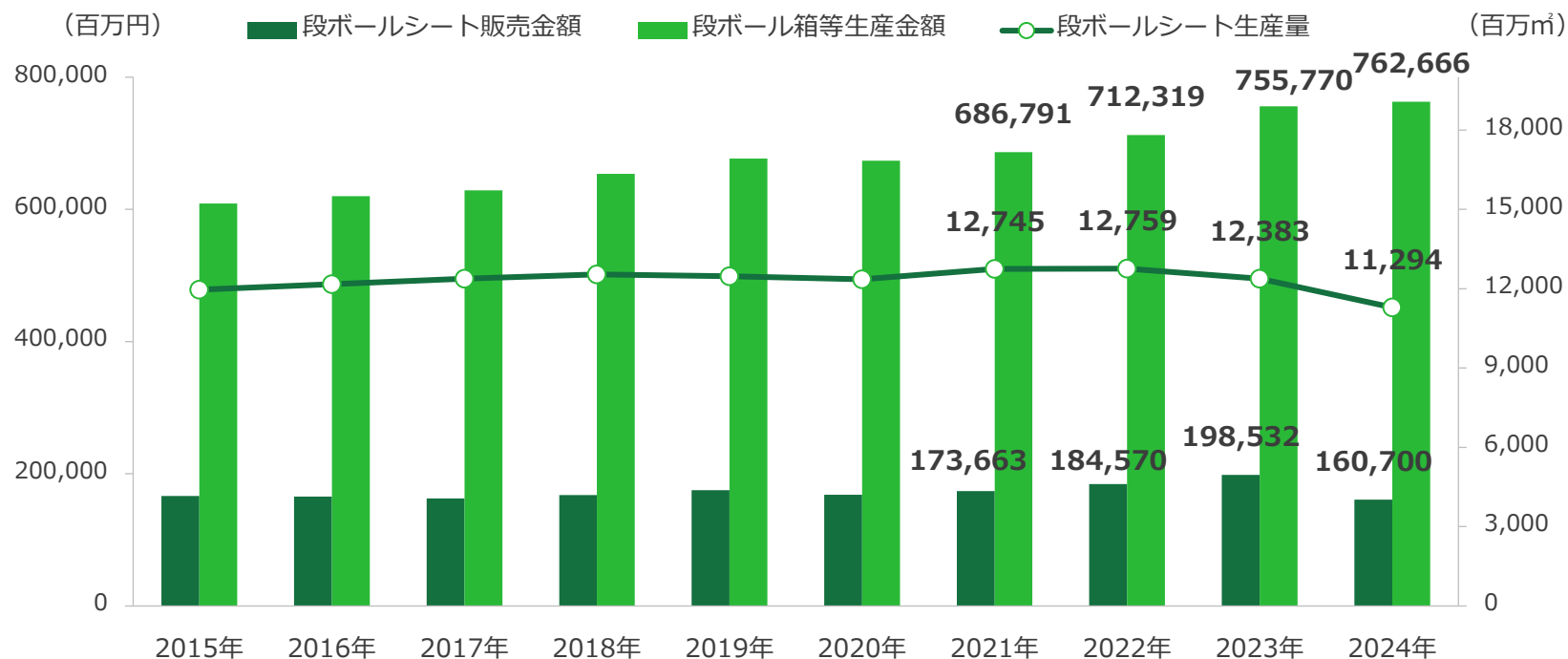
その他

段ボールパレットなど包装資材

段ボールの市場動向

段ボールシートの生産量は概ね横ばいも2023年は物価高による消費マインド減退により減少も、販売金額は2020年以降増加傾向

【段ボールシート販売金額・生産量、段ボール箱等生産金額推移】



経済産業省生産動態統計より当社作成

小ロット、多品種生産、短納期対応のサービス、きめ細かな納品対応力と自社物流体制

マーケティングからお客様を強力サポート

— マーケティング・デザイン・包装設計段階から企画・ご提案し、ノウハウを活かしたサービスを提供

一品種ごとのオーダーメイドに対応

— 撥水性・防湿性に優れた耐水段ボールや蒸散作用を適度に抑制した製品、保温に優れたスタイロ段ボールなど特殊加工、機能製品に至るまで、多彩な製品を提供

全国各地の営業ネットワーク

— 輸送コストの低減と迅速なサービスの提供のため、地域ごとに生産・サービス拠点を設置。自社配送システムを構築

徹底した品質管理による品質保証システム

— JIS規格、ISO9001：2000等、各種認定を取得。原材料の受け入れから、段ボールシート、段ボールケースの製造に至るまで、総合的な品質保証システムを確立

リサイクルの推進

— 古紙を利用した新製品の開発、リサイクルの推進（段ボール→古紙→再び段ボール）への積極的な取り組み

次世代でも存続できる企業であるために、ESGの視点を踏まえた経営を推進し、企業価値向上につなげていきます。

企業価値向上

E 環境

資源循環への取組みを通じた環境
保護・脱炭素社会実現への貢献

【取組内容】

- ① 段ボール製品のリサイクルの推進
 - ・ 段ボール端材のリサイクル、再利用
 - ・ リサイクルマークの表示
- ② 段ボール製品のリサイクルの推進
- ③ 事業の省エネ化
 - ・ バッテリー式フォークリフトの導入等
 - ・ 燃料の天然ガスへの転換
 - ・ LED照明の積極導入



S 社会

地域との共生や
多様な人材の活用の促進

【取組内容】

- ① 地域社会発展への寄与や貢献
 - ・ 全工場での地域住民との交流
 - ・ 中学生対象の工場見学、職業体験
- ② 地元グリーンボンドの購入及び投資表明
- ③ 製造現場における外国人技能者の継続採用
- ④ 利益の社員還元による働く意欲の向上
 - ・ 賃金上昇や一時金としての還元



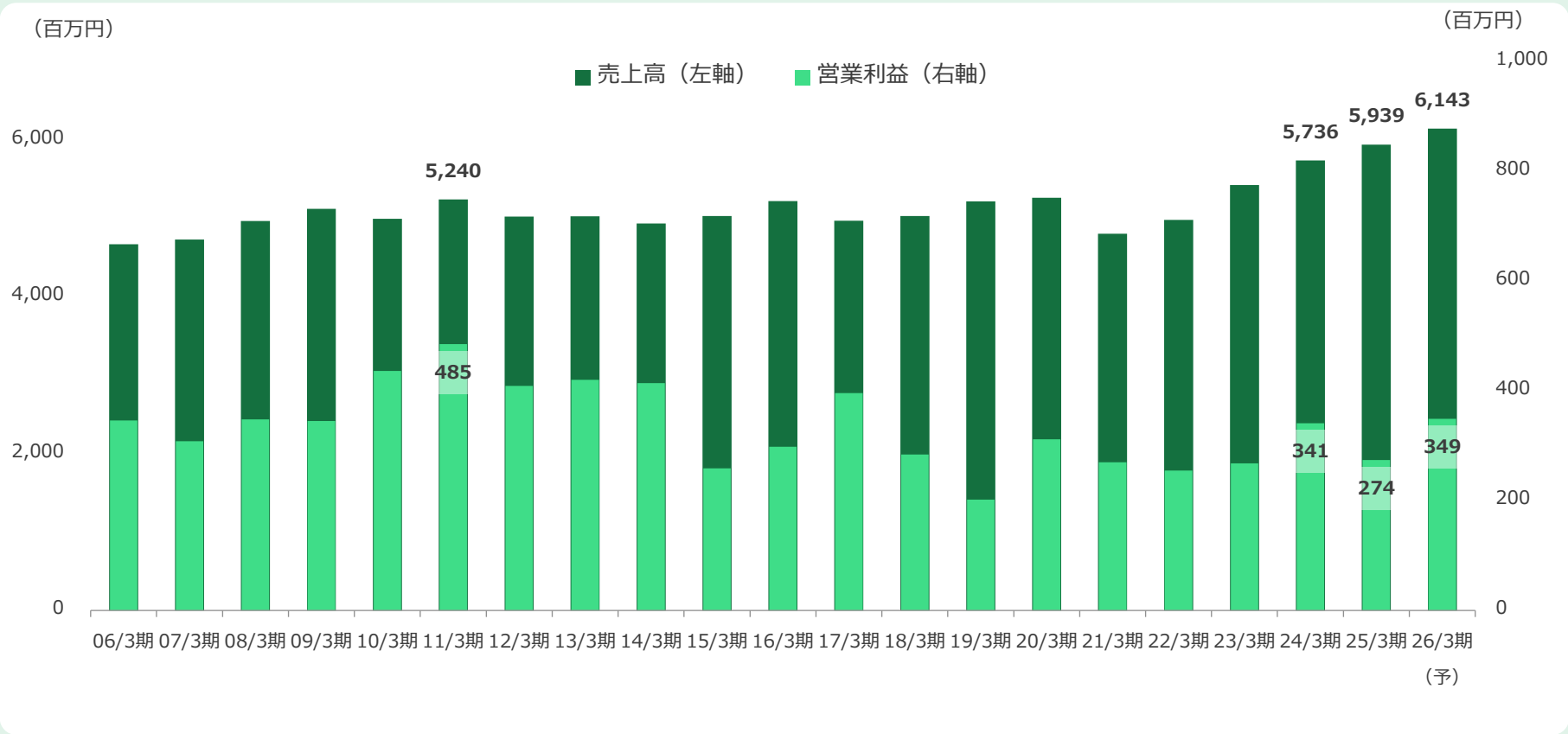
G ガバナンス

ガバナンス強化と
株主との対話の推進

- ① ステークホルダーとの接点強化のための
IR担当組織の設置と実施
- ② 取締役会の機能強化
(社外取締役比率の向上)



売上高は、コロナの影響で一時的に足踏みも直近は増収基調で推移



ご清聴ありがとうございました

本資料および決算説明会で提供する情報のうち業績見通しおよび事業計画等に関するものは、当社が現時点で 入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。

従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果になりうることをご承知おきください。

当社がこの資料を発行後、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新、又は修正して公表する義務を負うものではありません。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、又これを保証するものではありません。

本資料の著作権は当社に帰属し、目的を問わず、当社に事前の承諾なく複製又は転用することなどを禁じます。

【お問い合わせ先】

大村紙業株式会社

専務取締役管理本部長 八巻 和彦

e-mail : ir@ohmurashigyo.co.jp

TEL : 0467-52-1032 FAX : 0467-52-4738

ホームページ : <https://www.ohmurashigyo.co.jp>